

文化祭で演奏を披露する吹奏楽同好会

＝霧島市の福山高校



福山高同好会 昨年再始動、催し活躍

吹奏楽 地域を元気に

霧島市の福山高校で廃部になっていた吹奏楽部が昨年4月、愛好会として約8年ぶりに復活し、文化祭や体育祭で響かせる音色が地域の人々を力づけている。

10月29日の文化祭。舞台上には生徒十数人の姿があった。中には1人で三つの楽器をこなす生徒も。「学園天国」など5曲を披露すると、会場から大きな拍手が沸き起こった。近くに住む森山アツ子さん(69)は、演奏を楽しみに足を運んだ。「福山はどんどん人口が減り、活気がなくなっている。吹奏楽の演奏が元気をくれる」

吹奏楽部は部員の減少などを理由に2007年ごろ活動を停止。昨年4月、榎本浩一教諭(46)が赴任し、愛好会結成を呼び掛けた。中学時代に吹奏楽の経験がある2人がまず応じた。楽器は学校に残っていたドラムセットとタンバリンに加え、他の県立高校から融通してもらった。初心者も多く、復活の舞台となった昨年の文化祭は最後まで演奏できなかつた。悔しさを胸に練習を重ね、今年4月には同好会に昇格。12人のメンバーがそろった7月は県吹奏楽コンクールに出場

し、9月の体育祭では校歌伴奏などを担当した。「久しぶりに聴いて感動した」「敬老会や祭りで演奏して」という声が相次ぎ、涙ぐむ住民もいたという。「地域に育てられ、少しずつ成長していければ」と榎本教諭。3年森山花梨さん、2年森山佳苗さんは「一生懸命練習し、地域の行事でたくさん演奏したい」と話した。(山下翔吾)

吹奏楽部は部員の減少などを理由に2007年ごろ活動を停止。昨年4月、榎本浩一教諭(46)が赴任し、愛好会結成を呼び掛けた。中学時代に吹奏楽の経験がある2人がまず応じた。楽器は学校に残